



## 提案1

(提案書 様式①-1)

## 協働の機会提案書(新規提案用)

2023年 6月 21日

印西市長

様

(登録者) 登録番号 01 — 001

名称 NPO 法人ハートフルコミュニケーション  
千葉エリア

所在地 印西市瀬戸 2080

代表者職氏名 福田潔子

連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	家庭教育力の向上支援事業 『子育てを学ぼう！乳幼児期から始める子どもの心のコーチング』
現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)	核家族化が進み、地域とのかかわりも少なくなり、子どもの生活形態も変化し、人間関係の希薄化による「家庭教育力」の低下が懸念されていることは、「第二期印西市子ども・子育て支援事業計画」でも課題として提示されている。コロナ禍における社会の変化のスピードは著しく、SNS 等での情報があふれ、必要な情報を選び取ることが難しい中で、子どもを産み育てることへの不安が広がっている。また、家庭内での問題が表面化せず、虐待などの痛ましい事件が繰り返されている。子どもを健全に育てるための家庭教育力の低下は著しく、不登校やいじめ問題に親が対応できずに引きこもりへと発展するケースも増えている。
提案理由	子どもの健全な育成のためには、乳幼児期において、親子の信頼関係を構築することが大切である。なぜなら、そのプロセスで、子どもの生きるために欠かせない力、「自分で考えて行動する力」の土台となる、子どもの「自己肯定感」を育てることができるからである。そのためには、「親自身の成長を促す学びの場」が必要である。コロナ禍での親同士のつながりがさらに希薄になった現状を鑑み、まずは、乳幼児期の親向けに「子育てを学ぶ」機会を作ることが急務である。
提案内容 (予算の概算も記入)	子育て支援拠点などでの、乳幼児の親向けプログラムの実施 ① 参加型・体験型単発講座『子どもの心のコーチングワークショップ』 1回完結講座(1時間) × 3か所で実施 ② 対話型連続講座『ハートフルセッション』 連続6回の講座(1回2時間) × 2か所で実施 予算概要:約30万円

<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能 力や有利なアピールポイント)</p>	<p>① 当団体では、「子どもの幸せな自立」をテーマに、親の家庭教育力の向上を図るため 2006 年の NPO 設立当初より、教育委員会、地方自治体などからの依頼を受けて講座を実施。実績が豊富である(別紙2参照)</p> <p>② 「コーチング」を取り入れたプログラムはわかりやすく、日常生活ですぐに試せるものが多く、学びの効果を実感しやすい。</p> <p>③ 当プログラムでは、参加者同士が生産的に関わり、成果を作り上げる場面で使われるコミュニケーションスキルである「ファシリテーション」を用いるため、交流会や情報交換会とは違い、参加者に、深い気づきや発見を促すことができる。</p> <p>④ 乳幼児期から思春期まで、子どもの発達段階に合わせたコンテンツも豊富なため、この時期に必要な学びを組み込んだプログラムを作成できる。また、人数に合わせたきめ細やかな対応も可能である。</p> <p>⑤ ニーズに合わせて、オンライン・対面両方での実施が可能。</p> <p>⑥ 講師として、当法人代表理事である菅原裕子をはじめ、訓練を積んだ経験豊富なコーチが多数在籍している。</p>
<p>事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<p><b>【効果】</b></p> <p>① 子育てを学ぶ場があることで、親の育児不安の解消ができ、子育てへの自信を得られる。虐待の防止につながる。</p> <p>② 連続講座参加により、親同士のつながりが期待でき、新しいコミュニティーの創出ができる。</p> <p>③ 行政との協働事業による持続・継続性のある講座展開を図ることで、今後、子どもの成長に併せた切れ目のない支援の実現が期待できる (例:乳幼児期ワークショップ⇒入学サポートプログラム⇒児童期ワークショップ⇒思春期ワークショップなど)</p> <p><b>【今後の展望】</b></p> <p>継続した講座展開ができれば、親の自主性・課題解決力が向上することにより、子育て世代の地域活動への積極的参加が期待できる。なぜならば、当法人のプログラムは「教え込む」のではなく、寄り添い、問いかけていくコーチングの手法を取り入れているので、参加者に「深い気づき」を与え、親の「考える力」を引き出すことが出来るからである。</p> <p>また、親がこのプログラムの恩恵を受けて、成長し、一人の大人として自立することができれば、自身が体験したプロセスを後進に伝えていこうという意欲につながり、継続して学び合う循環を生み出すことが出来る。</p> <p>さらに、その学びを生かせる場を行政と共に作り出すことで、子育て・親育てを健全に進める環境づくり、地域づくりにつなげていくことが可能であると考える。そのために、初年度は乳幼児期の親の学びの場を作ることから始め、5 年後、10 年後の未来を創る人材を育てていくことを視野に入れた多角的で、継続的な事業を今後も提案していきたい。</p>

参考資料 1 <プログラムの内容詳細>

1) 参加型・体験型単発講座 『子どもの心のコーチングワークショップ』

内 容:乳幼児期に大切な「生きる力」の土台の育て方を学ぶ

テーマ:「イヤイヤ期の子どものかかわり方」

狙 い:「しつけ」に悩む時期に、適切なかかわり方を知ることで育児負担感を軽減する

周囲とのゆるやかなつながりをつくることで孤立感を解消する

実施形態: 1回完結講座 (1時間)

実施回数:1回×3か所

開催場所:市内子育て支援拠点など

対 象:乳幼児の親

特 徴:単発講座であるため、短時間で乳幼児期に大切な要素を学べる

ロールプレイなどを通して、すぐに実践できるやり方を学べる

2) 対話型連続講座 『ハートフルセッション』

内 容:少人数(7人程度)のグループでテーマに基づいて子どもとの日常を振り返る。

各回テーマ:(『子どもの心のコーチング』PHP 文庫・菅原裕子著をテキストとする)

第1回 親の役割～ヘルプとサポート

第2回 子どもに教えた3つのこと①愛すること

第3回 子どもに教えた3つのこと②責任

第4回 子どもに教えた3つのこと③人の役に立つ喜び

第5回 子どもを幸せにするしつけ

第6回 親の幸せは自分でつくる

狙 い:親同士ともに学び、成長する場を作り出すこと。

日常の中で出会う様々なことに対応できる知恵とスキルを得るだけでなく、

子育ての喜びや悩みを分かち合うことで、親のストレスの緩和と成長を促す。

実施形態:月1回(2時間)×6回の連続講座

実施回数:6回連続×2か所

特 徴:テーマに沿った問いかけに対し、参加者同士で話すことで深い気づきが生まれ、  
行動に結びつく。

連続講座であることで振り返ることができ、子どもへの変わり方の行動変容が起こる。

人の話を聞くことで、悩んでいるのは自分だけでないことを知ることができる。

人の話から自分の子育てのヒントを得ることができ、視野が広がり選択肢が増える。

回を重ねるごとに参加者同士サポートしあう関係性が生まれ、地域で子育てする

ことへの安心感を得ることができる。

開催場所:市内子育て支援拠点など

対 象:乳幼児の親

参考資料2 <自治体での活動実績>

【印西市での活動実績】

◆市民活動推進課 男女共同参画係 主催講座

・「どうしたらいい？思春期・反抗期」

～子どもの幸せな自立のために親ができること R元年

・「オンライン子育ておしゃべり会」 R2年

・「オンライン講演会 あなたらしくの子そだて」 R3年

【他の自治体での実績例】

◆神奈川県伊勢原市子ども部 子育て支援課主催講座

「子どもの心のコーチング～子どもに教えた3つの力」3回連続講座 R3～

◆千葉縣市川市 子育て支援センター「こあらっこ・こどもセンター」

育児講座「乳幼児向けハートフルセッション」6回連続講座×2 H30年～

育児講座「幼稚園ママ向けハートフルセッション」6回連続講座×2 R4年～

◆新潟県新潟市 めぐみ保育園併設 子育て支援センター「トマトくらぶ」主催

もっと！ずっと！にこにこママになる講座 3回連続講座 H28年～

◆新潟県三条市教育委員会主催 子ども育ちサポートセンター 全14カ所 R3～

乳児期家庭教育講座「たっぷり愛してしっかりまかせる ～心を育む子育てのヒント」

◆市川市教育委員会社会教育課主催

「オンライン講座～子どもの心のコーチング」3回連続講座 R3年

公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム事業

子育て支援講座「親の自主性を育てる親支援プログラム」H25年～27年

◆東京都港区男女共同参画センター主催

「子育ても自分も大切にしたいママのための講座」H27年～28年

以上

## 提案2

(提案書 様式①-1)



### 協働の機会提案書(新規提案用)

令和5年 6月 23日

印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 —

名称 印西・地域猫友の会

所在地 印西市小倉台

代表者 会長 小川 培雄

連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	「地域猫活動」普及啓発事業
現状・課題 (指定テーマ型の場合 はテーマ名のみ記入)	殺処分によらず野良猫を減らしていく有効な取組みとして、「地域猫活動」は、多くの自治体で推奨されている。印西市でも、避妊去勢手術費の助成が行われているが、様々な理由から活用が広がっておらず、理解が進んでいない地区では、餌やりトラブルも少なからずある。また、高齢等の事情による飼育放棄や捨て猫、虐待、多頭飼育も社会問題となっている。猫の適正飼育の推進も含め、地域猫活動の普及を進めていく必要がある。
提案理由	地域猫活動は、制助成金度をつくれれば普及するものではなく、実地で支援できる人材が地域に必要である。行政が得意とするところと、実行経験のある市民団体がなければできないことがあり、相互の協力により、効果的な普及啓発ができ、人にも動物にも優しい地域社会としていくことができる。
提案内容 (予算の概算も記入)	適正飼育、地域猫活動の啓発と支援、多頭飼育や高齢等による飼育放棄など様々な事例に行政と市民団体が連携して対応していくことにより、地域人材を育成し、ネットワークを強化していく。現在の相談実績から年2,019,000円を見積もったが、実際の要請により対応していくこととなる。
貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能 力や有利なアピールポイント)	印西・地域猫友の会は現在100名以上の会員を有し、市内・近隣市町で地域猫活動、保護猫・里親探し活動をしている「活動家」のネットワークをもっている。また、市の手術費助成に先駆けて、市内の動物病院と連携して手術費助成も行ってきた実績がある。協働により更にネットワークを強化し、地域での人材育成を進めることができる。
事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)	地域猫活動の取組みを増やすことにより、殺処分をゼロにし、野良猫を減らすことで猫による生活被害を減らしていくことができる。行政との協働により、関わる人材も増え、賛同者からの寄付を活かして、将来的には医療費等にあてる基金を構築していきたい。

提案 3

(提案書 様式①-1)



協働の機会提案書(新規提案用)

2023年 6月 23日

印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 ー  
名称 NPO 法人 亀成川を愛する会  
所在地 印西市木刈 1-6-4  
代表者職氏名 理事長 小山 尚  
連絡先 [Redacted]



企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

<p>提案事業名</p>	<p>(仮称)別所谷津公園に残る希少な里山生態系を市民とともに後世に残すため企画検討</p>
<p>現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)</p>	<p>当該地域の自然の価値は、会の前身である「(任意団体)亀成川を愛する会」の活動を通じて、2010 年代初頭に自然保護に関係するいくつかの協会・学会から調査・提言が出されて、植物、昆虫類、鳥類などのかつての里山に存在していた希少生物がいまだに残るなど社会的に認識されました。その結果別所谷津公園池及び古新田川防災調節池が斜面林を残したまま谷津の形態で残り、河川改修の方法が自然に配慮した工法に変更されました。</p> <p>本会は、川・湿地・池・雑木林・草地で、在来種の復活、緩水流部分の形成、竹類の除去による明るい林復活や外来種の駆除など、年間二百数十回の活動を行っていますが、自然の維持・回復には多大な労力を要し、現状を正しく把握して、より効果のある方法の導入を図るとともに、活動参加者の拡大が必要です。</p>
<p>提案理由</p>	<p>亀成川上流部の自然が持つ価値は印西市が誇ることができるものですから、保護・回復を図るとともに、市民にその価値を伝え、観察会や保全活動への参加を増やして、より親しんでいただきたいと思えます。</p> <p>ここで提案する事業は、自然価値の確認、保全方法の検証と改善、市民が自然に触れ合う方法の検討です。これらは当会が単独で行うのは困難であり、また、市と協働することにより、客観性のある十分な内容とする必要があります。このようにして得た知見は、市が環境保護推進の施策を行う際の根拠としても活用しやすくなります。</p> <p>参考 緑の基本計画 第2章緑の将来像と目標3 緑の配置方針 環境基本計画 第5章重点的な取組 取組1 グリーンインフラ大作戦</p>

<p>提案内容 (予算の概算も記入)</p>	<p>自然調査の実施 約 100 万円          亀成川上流部に限定して、調査機関に依頼して生物多様性調査を行います。この調査においては当会が保全活動を経て得ることができた知見を提供するとともに、当会会員も同行することを基本とします。          これにより、地域の自然価値を改めて確認するとともに、調査に必要な知識や技術の習得も図ります。          保全活動の改善 約 80 万円          池、川、水路、湿地、草地、林のそれぞれにおいて、学識経験者や経験豊富な団体とともに、当会が行ってきた保全方法を振り返り、生物多様性を維持・増進する方法を検討・試行して、報告書にまとめます。          市民が自然に親しむ方法の検討 約 50 万円          亀成川上流部の自然は市民が知って触れ合うことにより、印西市にとっての価値が高まります。現在も生物の保護を行いつつ、自然観察会・保全体験会などを行っていますが、この協働事業で得られた知見を活用した紹介資料の整備と、観察ルートの整備に関する検討を行います。</p>
<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能力や有利なアピールポイント)</p>	<p>本会は、長年にわたって当該地域の保全と観察を行ってきており、川・湿地・池・雑木林・草地からなる多様な自然を周知し、様々な保全方法の困難さ・効果・それに伴う自然と生き物の変化に周知しています。          会の前身である「(任意団体)亀成川を愛する会」当時から、自然保護に関する協会・学会などの専門家と交流があり、調査・検討を進める体制構築が可能です。          当該地域の自然は、印西市と市民が長期にわたり安定的な協働を進めることで、守ることが可能になります。当会は既に長年にわたる実績があり、地域の在来・新規の住民とも関係構築を図り続けています。</p>
<p>事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<p>この協働事業を通じて、対象地域の自然が持つ価値を客観的に捉えることができます。これにより、市と市民の価値認識を高める事ができるとともに、当会の保全・調査活動の方向性に示唆を得ることができ、保全方法の改善検討により保全の効果を向上することで、保全事業の継続性を高めることができます。          また、市民への周知が深まることにより、自然観察会・保全体験会などへの参加者が増え、保全を担う人を増やして、保全の継続性をたかめることができます。          さらに、観察ルート整備の検討成果を実際の整備につなげることにより、当該地域の自然を「そこにある」という価値から、「実際に見て・感じて・好きになる」という価値に高めていくことが可能になります。</p>

提案 4

(提案書 様式①-1)



協働の機会提案書(新規提案用)

令和5年6月22日

印西市長 様

(登録者) 登録番号 04 -001
名称 ベジガールズ 全世代に向けた運動支援
所在地 印西市西の原
代表者職氏名 飯田 渚
連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

Table with 2 columns: Category (e.g., 提案事業名, 現状・課題, 提案理由, 提案内容, 貴団体の特性, 事業実施により得られる効果) and Description.



提案5

(提案書 様式①-1)



協働の機会提案書 (新規提案用)

2023 年 6 月 23 日

印西市長 板倉正直 様

(登録者) 登録番号 —  
名称 特定非営利活動法人みどりと大地の会 印西支部  
所在地 印西市大森  
代表者職氏名 印西支部長 中澤博雄  
連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	放置竹林の整備ならびに筍味噌、竹炭など印西特産品の開発推進
現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)	人口11万人を超えた印西市では大規模な企業誘致や新たな宅地開発で風物であった里山の景観も変わりつつあります。その中で目立つようになったのが放置された雑木林や竹林です。印西環境推進市民会議では2019年3月に「竹林整備事業補助金制度新設の提案」を行い、補助対象者や補助対象事業等を逸早く提示しています。この中の竹林活用事業に当団体の強みである発酵食品を加えて新規提案をいたします。
提案理由	印西中学校の通学路に隣接する荒れた竹林がありました。電柱に枯れ枝が絡まり生徒に危害が及ぶのではと危惧した当団体のメンバーが地主の許しを得て2015年5月頃から有志たちと整備を始め、立ち入ることも困難だったこの竹林は現在、風通しも景観も良くなり、地域住民や通行人に喜ばれ、良質な筍が収穫出来るまでにもなりました。
提案内容 (予算の概算も記入)	特許取得の「無煙炭化器」という商品があります。県や市町村で実績を重ね、竹林整備で活躍するだけでなく、生成した竹炭は土壌改良剤としても優れた効果をもたらす農作物の収穫が増えたなど効果報告も多数寄せられています。価格は最大169,400円。同額程度の粉碎機なども同時購入し作業工程や必要な道具を整え、無煙炭化器で良質な竹炭が生成された場合は市役所等での無料配布も提案したいと考えます。
貴団体の特性、協働で実施するメリット (提案者が事業実施できる能力や有利なアピールポイント)	食をテーマのモノ作りを通して生きる喜び、楽しさを共有する仲間作り、それがNPO法人みどりと大地の会の目的であり使命です。色々な果実や野菜を使い、酵素蜜を開発し、料理や漬物、保存材料として広い用途に活用しています。本部がある白井市では特産品の梨を用いた梨味噌を提案「ふるさと納税」返礼品として採用されています。各団体とのコラボで様々な新たな試作品を生み出し提案、提言いたします。
事業実施により得られる効果 (自由提案型は今後の展望も記入)	印西市民活動センターには里山保全や竹林整備といった自然環境への思いが同じ団体が多々あります。市内には数カ所様々な野菜を育てて販売人不在で収穫体験出来るという新たな試みを提供している畑があります。また江戸中期から続く麴味噌店があります。これらの団体、個人、企業などとの連携やコラボを図り、整備で市民が集い、整備された竹林が憩いの場になるような事業展望を進めたいと考えます。

## 提案 6

(提案書 様式①-1)

### 協働の機会提案書(新規提案用)

令和5年 6月 23日

印西市長 様

(登録者) 登録番号 ー

名称 チームいんざい

所在地 印西市中央南

代表者職氏名 星野 渉

連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	チームいんざいプロジェクト
現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)	<p>日本各地では過疎化がすすみ、全国市町村の約47パーセントが過疎市町村といわれている。(令和3年度)そんな中わが印西市は、昨年人口が11万人を超え、様々な地域から多くの転入者を迎えている。また、日本の社会問題である少子化においても印西市は例外で、未来の宝である子どもたちは増え続けている。かつて住みやすいまちナンバーワンとうたわれた印西市が、本当の意味で市民にとっての住みやすい街になるには、市民と行政がともにまちづくりをしていくことが大切である。</p> <p>令和4年度印西市市民満足度・重要度調査によると、「市政への参加」に対する満足度(満足とやや満足)が28%となっている。令和2年度と比べると7.2%も低くなっている(令和2年度は35.2%)。一方、重要度については、「重要」「やや重要」と答えた市民が59.2%と高くなっている。市民の過半数が「市政への参加」は重要なことと認識しているものの、満足できる状況にないことがわかる。また、満足度の解答で「わからない」と答えた市民が53.3%を占め、市の取組に関して情報が行き届いていない現状があるのではないかと考えた。</p> <p>市政の参加を重要視している市民が多くいることを生かすべきである。そこで、市政に参加しやすい企画や取り組みをアピールしたり、主権者教育を充実させたりすることで、より高い満足度で生活できる市民が増えることが期待できる。それが「ずっと住みたいまちづくり」につながる。</p>

<p>提案理由</p>	<p>満足度調査によると、市政への関心も高く66.5%の市民が「とても関心がある」「少し関心がある」と回答している。一方で市政へ参加したことがあるかという問いに対して「参加したことがない」と47.4%の市民が解答している。参加したことがない理由の調査結果はないようだが、日本のこれまでの文化的背景が影響していると考えられる。一市民がどのように市政に参加すればいいののかの具体的例が思い浮かばないのではないかと。そこで、堅苦しいイメージのある市政に対するイメージをやわらかく楽しいものに変えていけるイベントを企画し、市政に参加しやすい機会を創出したい。</p> <p>また、「市政への関心」に対する世代別の結果を見ると、18歳から29歳の市民の約50%は「市政に関心がない」と回答している。「ずっとこのまち印西で」のスローガンのようにずっとこのまちに住むかもしれないのは、若い世代である。その世代の市民が前向きに市政に関わっていくことが大切である。そのためには、主権者教育を充実させ、市政に関わることは楽しいということを知ってもらい、住みやすいまちづくりにつなげていきたい。</p> <p>ポジティブに市政に参加する市民を増やすことで、市民と行政がチームになるような印西市をつくることのできるのではないかと考えた。</p>
<p>提案内容 (予算の概算も記入)</p>	<p>市政への参加を重要視しているが、なかなか参加できずにいる市民が前向きに活動に取り組んでいけるようにするために、以下の2つの方法について取り組む必要がある。</p> <p><u>(1) 若い世代の市政参加を促進するために</u></p> <p>若い世代はまちづくりへの興味関心が低い傾向がある。学生が主体的に参加したくなるような機会や出張授業を通してまちづくりを学ぶ場を用意する。</p> <p>①学生未来会議：関心の高い学生を集め、身近なトピックについて話し合ったり、市の未来像について語り合ったりする。学生たちの提言をまとめる機会を設ける。</p> <p>②出張授業：学生のロールモデルとなる若者を登壇させ、街づくりへの積極的な参加、主権者意識の向上を図る。授業の構成や進行は元教師が行い、生徒の関心を引き出す工夫のある授業を計画する。</p> <p><u>(2) 子育て世代の市政参加を促進するために</u></p> <p>子育て世代は、時間がないため単発的な親子イベントへの参加を通じ、ご近所・お知り合いネットワークの中で負担なく気軽にまちづくりに参加する機会を創出する。</p> <p>①親子で楽しむイベントの中での市民活動・まちづくり活動の紹介：親子で楽しめるイベントの中で、市民活動団体を知る機会を設ける。活動している人と出会い語り合う中で、自然とまちづくりについての情報を得ることにつ</p>

	<p>なると共に関心を高めることにつなげていく。</p> <p>②いんざいわくわく会議の開催：市民の関心が高いタイムリーな話題を通して、困り事や対応策などの情報交換をする。身近な話題について語り合うことで、市政への関心を高めると共にお隣さん・お知り合いレベルの小さな市民ネットワークを創出する。</p>
<p><b>貴団体の特性、協働 で実施するメリット</b> (提案者が事業実施できる能力や有利なアピールポイント)</p>	<p>提案内容を実施するにあたり、下記のように専門性のある適切な人材をプロジェクトメンバーとしている。また、すでに市内で学生や子育て世代を対象に活動してきたメンバーがいることで、本プロジェクトのターゲットとする若い世代子育て世代に適切にアプローチすることが期待できる。</p> <p><u>(1) 若い世代の市政参加を促進するプロジェクトについて</u></p> <p>本プロジェクトには元学校教員が参加しており各学校の状況に応じた出張授業の提案を行うことができる。また行政・政治について学ぶ大学生や印西でゴミ拾い活動を行う大学生が参加しており、それぞれ市内で活動している。彼らを「未来を担う若者世代のロールモデル」として出張授業や学生未来会議で登壇させることで、他世代からの押し付けではない若者の主体性による市民参加のイメージを具体的なものにすることができる。また若者同士による市民ネットワークの構築も期待できる。学生未来会議では、例えば、環境問題や多様性をテーマにこれからのまちづくりについて座談会を開催する。専門家も交えて学生主体で話し合い、提言をまとめていく。このような活動は学生がまちについて興味を持つきっかけになるだけでなく、本人にとっては将来の働き方のヒントを得る機会、または就職・進学においてポイントとなる活動として捉えられることから、主体的な参加を期待できる。</p> <p><u>(2) 子育て世代の市政参加を促進するプロジェクトについて</u></p> <p>また、印西市内でママ向けマルシェやイベントなどを主催してきた主婦二名も参加している。これまでの実績として「流しそうめん総選挙」という投票体験チャレンジを楽しむ親子イベント（約60名参加）、地域の子育て世代向けに教育のこれからについて話し合う「チームいんざいわくわく会議」（約60名参加）などを開催してきた。すでにあるこれらのつながりを活用し、より多くの市民が市民活動や活動する人と出会う機会を創出することができる。市政への関心を高めるだけでなく、困ったことがあれば情報交換などを通して助け合うお知り合い・お隣さんネットワークの構築も期待できる。</p> <p>このような取り組みを積み重ねることにより市民同士が知り合い、市の取組を知るだけでなく「チームのメンバーの一人」という意識で市政に関わろうとする市民を増やすことができる。</p>
<p><b>事業実施により 得られる効果</b> (自由提案型は今後の)</p>	<p>まちづくりや主権者教育、学生未来会議などを通して、学生の市民としての意識向上・市民活動への参加を促進することができる。また実際市民活動を主催している大学生は「活動していく中でよりこの街が好きになった」と言</p>

展望も記入)

っていることから明らかなように、まちづくりへの参加は印西を好きになる若者やこれからの印西に希望をもつ若者が増えるということにつながる。そしてずっとこの故郷・印西で暮らしたいという意識をもった若者が増えることは印西市総合計画の打ち出す将来都市像「ずっとこの街印西で」というスローガンに叶うものであると期待したい。

また、市政に参加したことが無かった子育て世代が、様々なイベントに参加することによって市政参加へのハードルを下げることができる。様々な市民活動を知り、様々な活動家の考え方をすることは市民の視野をひろげることになる。それは、まちづくりに対するイメージや市政に対する考え方も前向きなものに変えると考え。イベント等を通して、様々な立場の人の考え方や取り組みを知り関係性が構築されていく中で、批判ではなく建設的なアイデアを考えようとする市民の育成につながることを期待したい。

# 提案 7

## 協働の機会提案書(継続提案用)

令和5年6月23日

印西市長 様

(登録者) 登録番号 —

名称 みんなのいっぼ

所在地 印西市西の原

代表者職氏名 伊藤かおり

連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

<b>提案事業名</b>	グリーンカーテン大作戦！ 「CO2を減らそう！ストップ温暖化！」
<b>現状・課題</b> (前年度の実施を踏 まえた課題)	2050年カーボンニュートラルに向けた世界的な動きの中、印西市も第三次印西市環境基本計画に基づき市民・事業者・行政が一体となり地球温暖化に向けた取り組みを推進することが急務となっている。 印西市が行った「環境に関する市民アンケート調査結果」によると、印西市民の79.6%が環境問題に関心があると答えている。市民の環境問題に対する意識はとて高いということがわかる。しかし、「どのような取り組みをすればいいのかわからない」という意見が40パーセント。「環境事業を行っていることを知らない」と答えた市民が41パーセントもいる。環境問題に対する市民の高い意識を、より行政事業への参加に促すにはどうすればいいのかという課題があると考えた。そこで令和5年度より印西市との協働事業によるグリーンカーテン大作戦を実施した。様々な形で市民にグリーンカーテン大作戦を広めると共に、地球温暖化について関心を高めることができた。しかし、温暖化による影響がわたしたちの生活に直面してきており、市民の関心をさらに高め地球温暖化防止についての具体的な行動がひろまっていくことが大切だと実感している。原小学校において地球温暖化の出前講座授業を行ったが、子どもたちの環境に対する意識が高まり自主的に学ぼうとし自分にできることを考えようとする姿が見られた。この出前講座授業をより多くの学校で開催して、その保護者にも聞いてもらうことが大切ではないかと考えた。また、市民の家庭菜園における栽培技術に対するサポートが必要だということが分かった。

<p>提案理由</p>	<p>市民アンケートによると32パーセントの人が「環境事業に取り組む時間が無い。」と答え、23パーセントの人が「個人で取り組んでも効果がない」と答えている。仮に、グリーンカーテンなどの環境事業に力を入れ周知しようとするには、環境対策として取り組むメリットに加えて魅力的な活動を企画する必要があると考える。環境意識があまり高くない市民にとってもグリーンカーテンの設置が楽しく魅力的な活動に感じられる工夫が必要である。それには環境対策やグリーンカーテンといったテーマで環境教育活動を行うだけではなく、自然体験イベントを森で行い、楽しく時間を過ごす中で実際に森の気化熱効果を実感し、その実感を共有し、裏付けとして気化熱効果について説明を行い理解してもらう活動が有効である。種や苗の配布はこのようなイベント開催と共に行うことでより実効性が高くなることが期待できる。これにより子供でも環境意識の低い人でも抵抗感なく参加意欲を高めることができると考える。</p> <p>また、印西市内の小学校や中学校、公民館などにおいて地球温暖化の講座をより多く開催する。地球温暖化についての現状を知ってもらい「自分にできること」を考えるきっかけを提供したい。そうすることで、市民と行政とが連携を図り地球温暖化に対して共に活動していけると考える。</p>
<p>提案内容 (前年度の実施を踏まえた改善内容)</p>	<p>グリーンカーテンが市民に環境対策として認知され、活動に取り組む市民を増やすには、以下の2つの方法について取り組む必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) より活動を広く周知するための発信方法としてSNSを活用すること</li> <li>2) 環境意識が高くない市民への参加を促すため、グリーンカーテンの断熱効果をPRする。グリーンカーテンの設置目標を達成した参加者にグリーンカーテンコンテストに参加できる特典を設け参加のインセンティブをつくる。また、育てたへちまからへちまスポンジを作る講座を開催する。へちまスポンジについては秋以降一部配布を通じて夏以外でも気軽に環境活動に参加できることを周知する。</li> <li>3) 苗を販売している地元のホームセンターや種苗販売店と連携して、グリーンカーテンのPRを行う。</li> </ol> <p>具体的な配布方法として以下の取組を行う。尚、活動場所として「はる農園」に協力してもらう。</p> <p>①気化熱効果を体験できる森での自然体験を通した普及活動および種の配布</p> <p>4月～5月 月3回～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の種苗店や商業施設との連携</li> <li>・森の中で自然体験 ゴーヤ、へちま、アサガオ 種まき、種配布</li> </ul> <p>5～6月 月3回～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境フェスタでの苗及び種の配布、グリーンカーテンの周知啓発活動</li> <li>・森の中で自然体験 苗の配布(プランターへの植え付け開始)</li> <li>・小学校や中学校、公民館などでの地球温暖化講座</li> </ul>

	<p>・地元のカフェ、公園、商業施設でのグリーンカーテン講座</p> <p>7月～8月 月3回</p> <p>②主に小学生を対象とした自由研究テーマとしてのグリーンカーテンの普及 ・夏休み自由研究サポート～「グリーンカーテン」でできること～</p> <p>③家庭菜園を行う市民を対象とした出張講座にてグリーンカーテンの設置の実演</p>
<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット</p>	<p>本年度ははる農園を拠点に自然に親しむ活動を定期的に行っているプレーパーク、INZAI ポットラック、チームいんざいなど他の市民団体とも連携してイベントを企画してきた。私たちの開催するイベントの特徴として、いろいろな人が参加したくなる魅力あるテーマを設定している。イベントに魅力があることで、環境問題に関心ある人も無い人も参加することにつながっている。「環境事業を行っていることを知らない」と答えるような人たちにとっても環境問題に関わるイベントの存在を知る機会を創出することができる。もともと関心ある人にとっては、具体的な活動に参加できる機会となる。アンケートにあるように関心はあるものの「個人で取り組んでも意味がない。」と半ば諦めかけている人にとっては、一緒に取り組む仲間とのつながりが生まれ、意味のあることだと感じる機会になる。「時間が無くてできない」と答えていた人にとっては、こちらが段取りすることで気軽に参加できる機会になる。その結果さらに自然に対する親しみをもつことにつながり、それこそが環境を考え行動する人を育てることにつながると考える。</p> <p>また、また、地元のカフェ、商業施設、公園のイベントなどでもPR活動を行った。様々な団体と連携することによって、市民・企業・行政が共に活動していくきっかけをつくっていくことができると考える。</p>
<p>継続実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<p>・自然体験イベントやSNSでの発信により環境意識の高い、時間的に余裕のある参加者だけでなく、子育て世代や若い市民に対する普及啓発を進めることができる。</p> <p>・SNSの活用により双方向のスムーズなやり取りが可能であるため、グリーンカーテンの育て方や活用、効果についての参加希望者の疑問を直接解消することができる。</p> <p>・環境問題に関心のない市民に対しても自然の中で楽しめるイベント、あるいはへちますポンジをつくる体験、グリーンカーテンコンテストなどのインセンティブがあることで、参加への心理的なハードルを低くすることができる。</p> <p>・環境意識のあるないにかかわらず、夏季のグリーンカーテン設置により気化熱効果による室内外の温度の減少、エアコンの省エネ効果、それによるCO2削減効果など、環境対策に貢献することができる。</p> <p>・これらの効果を参加者が可視化できる形で掲示、あるいはSNSで公開することで参加者の環境意識がより向上することが期待できる。</p>



# 提案 8

(提案書 様式①-1)



## 協働の機会提案書(新規提案用)

令和 5年 6月 23日

印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 20-001  
名称 NPO法人 エコネットちば  
所在地 印西市竹袋72  
代表者職氏名 理事長 齊藤 敏男  
連絡先 [REDACTED]

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業
現状・課題 (指定テーマ型の場合 はテーマ名のみ記入)	竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業
提案理由	繰り返し訪れる人の多い竹袋調整池と周辺地域は、景観に恵まれ野鳥も飛来する自然豊かな憩いの場所です。印西市の花の名所として市民はもとより隣接する地域の人々にも愛されています。この景観と環境を保つためには継続した維持管理が必要です。
提案内容 (予算の概算も記入)	遊歩道沿いに花を植え、緑地の草刈、植栽の管理、ごみな清掃などを行い、癒しの景観と快適な環境を維持します。 1. 花畑の整備・維持 2. 緑地の定期的な草刈 3. 随時のごみ清掃 4. 放流口のごみ除去 (概算予算 : 3,000,000 円)
貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能 力や有利なアピールポイント)	エコネットちばは地元で活動するNPO団体で、地域住民・地元町内会・商店会・学校や他市民活動団体とも協力して、花畑づくりや地域まつり(コスモスふれあいまつり)を実施してきました。この地域の維持管理を行政と協働事業で実施することで、より良い癒しの場を提供でき、地域の期待に応えられます。
事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)	協働事業に提案して15年、継続した維持管理により環境が保全でき、植える花も工夫して充実してきました。今後もひょうたん島池広場が、憩い、癒し、そして健康増進の場として、地域住民に愛され利用されるコミュニティの場を提供できます。